

中学校 2 年

短歌の鑑賞文を記述し交流する

大東市立谷川中学校

教科

国語

単元名

短歌に親しむ・短歌を味わう

本単元で育む学びスキルと学校図書館活用スキル

G-STEP 4, C-STEP 4

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



単元でつきたい力

(教科等でつきたい力)

- ・短歌の基礎知識（音数や俳句との違い）を身に付ける。（既習事項である表現技法の復習を含む）
- ・表現の工夫に着目して短歌の鑑賞文を書く。
- ・鑑賞した短歌の魅力を他者へ伝える。
- ・短歌を創作する。

(学校図書館等の活用でつきたい力)

- ・短歌に関する様々な学校図書館資料から必要な情報を読み取り、自分の鑑賞文に反映させる。
- ・教科書以外の短歌に多く触れることで語彙力や言葉遣いを豊かにする。

単元における学習の展開（全 7 時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第 1 次 (1 時間)	・短歌の基礎知識を確認する。 ・一年生で学習した表現技法を復習する。
第 2 次 (4 時間)	・鑑賞文の一般的な構成を教科書の文章から理解する。 ・実際に鑑賞文を書けるようになるために、どのような鑑賞文が魅力的か（説得力があるか）を分析し、交流する。 ・教科書に記載されている短歌五首の中から好きな短歌を選び、鑑賞文を書く練習をする。 ・書いた鑑賞文をペア交流し、相互評価をおこなう。 ・他者評価を受け、自分の鑑賞文を再構築する。 ・学校図書館にある「短歌に関する本」の中から、好きな短歌を選び、その短歌の鑑賞文を書く。（本時）（☆） ・ギャラリーウォークを通して相互評価をおこなう。
第 3 次 (2 時間)	・短歌を創作する。 ・クラスで歌会を実施し、相互評価をおこなう。

本時のねらい

- ・前時までに学んだ、短歌の魅力がより一層伝わるような書き方（鑑賞文の書き方）を活かし、学校図書館の本から選んだ好みの短歌の鑑賞文を書くことができる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用及び言語能力の育成のためのポイント・指導上の留意点
導入 (4 分)	1. 前時に学んだ鑑賞文の書き方を確認する。 ・本時のめあてと流れを確認する。 ・相互評価を受け、次はどのように表現したいかを確認する。 ・魅力がより伝わるように鑑賞文を書くことの実践編であることを確認する。	・前時の学びを本時につなげて捉える。（書き方指導）
展開 (39 分)	2. 学校図書館の本の中から一冊の短歌本を選び、鑑賞文を書く。 ・好みの短歌を一首選択し、書き取る。 ・選択した短歌一首の鑑賞文を書く。 ・書き上げた鑑賞文を机の上に広げ置き、ギャラリーウォークで評価する。 ・一人数枚の付箋紙を持ち歩き、共感できた部分に付箋紙を貼り付け、コメントを残す。 ・自分の考えと異なる点と同じ点で使用する付箋紙の色を分ける。 ・自席に戻り、貼られた付箋を項目ごとに分類する。 ・他者との考えの違いに気付き、更に見方・考え方を増やす。	・本に触れることで多様な短歌を味わう。 ・書くことが苦手な生徒でも、前時の書き方を振り返ることで全員が記述できる授業にする。 交流時には自分の考えと相手の考えの共通点と相違点を述べるという言語活動を、年間を通して取り組む。 ・ギャラリーウォークにより多様な考え方に触れさせる。
まとめ (7 分)	3. ふりかえりを書く。 ・他者の鑑賞文を読んで気付いたことや、自分の鑑賞文を読んでもらったコメントを通して得られた発見などを 80 字作文する。	・毎回のふりかえりシートに 80 字マスを用意する。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・毎時間の積み重ねにこだわること。
- ・交流時の約束事として「自分の考えと相手の考えの共通点と相違点を述べる」という言語活動を定め、全教科で実践を重ねていることで、生徒のスキルとして身に付けていく。
- ・学校図書館にある本を教材として用いることで多様な言葉に触れ、語彙力の向上につながる。
- ・たくさん本から取捨選択する活動を通して読む力・判断する力を養うことにもつながる。



学校図書館本から短歌を選び、鑑賞文を記述している様子